

地盤工学会 関東支部 造成宅地の耐震対策に関する研究委員会 (H24 年度活動)
第 9 回議事録案 (準備委員会含む第 13 回)

日時：平成 24 年 11 月 2 日 (金) 9:30~12:30

場所：地盤工学会館 大会議室

出席者：安田委員長、安尻委員、飯沢委員、内山委員、小川(和)委員、小西委員、澤田委員、新坂委員、末富委員、高田委員、手塚委員、橋本(隆)委員、人見委員、松下委員、松本委員、山本委員、太田秀樹オブザーバ、大林

資料：9-1 議事次第、議事録案

9-2 第 9 章差し替え案

議事：

1. 委員長挨拶

- ・宅地の液状化による流動に関する議論も出てきた。手引書にも記述すべきか今後議論したい。

2. 浦安市建築指導課依頼の相談会について

- ・10月21日(日)富岡公民館で実施した住民相談会の内容を調書にて説明。相談内容、回答について確認。

- ・地盤への対策を実施した場合に、それが建替え時の障害になるのかどうかの質問があった。売却時の問題について手引書にも盛り込むこととした。

3. 戸建て住宅の液状化対応に関する手引書の内容について

- ・図表の引用等について再確認する。

3 章

- ・3.3(5)の L1、L2 に対するクライテリアについて、L1 については「全層にわたって液状化させない」もしくは「半壊程度に至らない。」とし、数値は 10/1000 とする。

- ・傾斜角に関する出典を明示する。

4 章

- ・図 4.2 の傾斜復旧工事を施していない人のデータが望まれるところであるが、今のところ整理されたものが無い。

5 章

- ・5.2.7 の映りが悪いので再確認する。

6 章

- ・表 6.1 は 3 章の文言に合わせる。

7 章

- ・7.1 に浅層盤状改良の研究で実施した、コスト試算例などを記述する。

- ・浅層盤状など、対策範囲について記述する。

- ・浅層盤状については、山本委員から提供いただく、実験結果をめり込み沈下で整理した図に差し替える。

- ・7.1.2 に他工法に配慮した文章とする。

- ・被害軽減技術の概要について、「施工事例」ではなく「過去の地震での改良効果の確認例」などとする。

- ・7.2.2 固化工法について、注入形態は割烈注入との違いを明確にする。

- ・地下水位低下工法には山本団地の例を入れる。

- ・不飽和化工法の経年効果の確認について再確認する。

- ・図 7.2.8.5 について再考する。

- ・壁状締め切りについては、鋼矢板リングの考え方を記述する。

- ・こま型基礎については委員長に記述いただく。

- ・かさ上げ盛土については、潮来の事例等を記述する。

8章

- ・8.1 広域的な対策の事例を示す（宅防マニュアルに記載されている例を引用する）。

9章

- ・施工事例は7章に移す。

10章

- ・新たに10章を設け、「その他留意事項」とし、対策による売却時の問題、隣地への影響などについて記述する。（執筆担当 安田委員長）

4.今後のスケジュール

本委員会の次年度の活動について

- ・本委員会は平成25年3月で終了するが、来年度も成果普及委員会として存続させる。自治体への説明会や講習会などを企画する。

手引書について

- ・委員会報告書として印刷を考える。費用については、販売によって賄う計画とし、12月17日の支部運営委員会に印刷計画を諮る。

- ・手引書の執筆については以下のように進める。

11月20日を目処に本日の委員会結果を受けた修正原稿を各章の査読担当および幹事まで送付

査読担当については、原稿を査読し、**12月15日**を目処に執筆者とのやり取りをメールにて行う。

査読担当については、委員長と幹事に一任いただく。

1月9日（水） 概ねの最終原稿案をもって委員会開催

- ・次回委員会

1月9日（水） 15:00～ 地盤工学会館

以上